

2015 年 12 月 11 日

社会福祉法人日本盲人会連合からの感謝状の受領について

日本化粧品工業連合会

2015 年 10 月 7 日（水）、日本化粧品工業連合会会長（粧工連）小林一俊会長（（株）コーセー代表取締役社長）は、ボディーソープ（身体用洗淨料）容器の触覚識別表示に関する粧工連のこれまでの活動に関して、社会福祉法人日本盲人会連合会長竹下義樹様から、感謝状を受領いたしました。

ボディーソープの容器については、かねてより視覚障害者から形が似ているシャンプーやリンスの容器と識別がしづらいという意見があり、改善を求める声がありました。

その声を受け、粧工連では広報委員会において検討を進め、日本工業規格（JIS）S0021「包装—アクセシブルデザイン—一般要求事項」の改正において、ボディーソープ容器側面又は（及び）上部に直線状の凸線（ライン）を付けた案の提案を行い、さらに、当該 JIS 改正後には傘下会員各社に対して当該 JIS 準拠の要請を行うことで、その普及に努めました。

その結果、既に複数の企業において、容器に直線状の凸線（ライン）が入ったボディーソープが市販され始めており、今回の感謝状を受領することとなったものです。

10 月 7 日（水）当日には、社会福祉法人日本盲人会連合会長竹下義樹様が粧工連に訪ねられ、小林一俊会長の代理として山本順二専務理事が感謝状を受領いたしました。

竹下様からは、困難であったボディーソープの識別が容易になった事は大変嬉しいことで、視覚障害者の日常生活の維持と更なる生活の向上を与えてくれたことに感謝の弁を述べられ、この試みをきっかけに他の商品等においても視覚障害者が識別出来る仕組みや工夫が施されるように影響が広がって欲しいと感想が述べられました。

粧工連においては、本年 8 月にはサステナビリティ指針を策定するなど、引き続き「お客様への適正でわかりやすい商品・サービスの情報提供」に、努めて参ります。

【感謝状受領の様子】

